

日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

NO. 24

2011年10月25日 日本共産党埼玉県議団

被災者支援、放射能汚染対策の強化を

2012年度県予算への要望を知事に手渡す

日本共産党埼玉県議団と日本共産党埼玉県委員会は10月25日、上田清司県知事に「2012年度埼玉県の施策並びに予算編成に対する重点要望・提案」を手渡し、懇談しました。



左から小松崎県委員長、上田知事、柳下県議、村岡県議

「重点要望・提案」は 東日本大震災被災地・被災者支援と防災対策 福祉・保健・医療の充実 地域経済の活性化、など10分野151項目（小項目を含めると257項目）です。このほか、県内の党市議団から寄せられた個別要求を盛り込んでいます。

懇談には日本共産党からは小松崎久仁夫県委員長と柳下礼子、村岡正嗣両議員が、県側は上田清司知事、塩川修、広畑義久の両副知事らが出席しました。

県民の期待にこたえる活躍を

小松崎県委員長が知事に求める

小松崎県委員長は「3選を果たした知事には、県民の期待にこたえる活躍を求めたい」とあいさつ。柳下県議は東日本大震災の被災者支援や県産茶の放射能

汚染対策、福祉・医療など県民の生命と健康を守る施策の強化を、村岡県議は局地的に放射線量の強い「ホットスポット」の対策やゲリラ豪雨などによる内水災害対策を求めました。

上田知事は県産茶やホットスポット対策について、一つひとつ課題をこなしながら対応していきたいとこたえました。

詳細は後日党県議団ホームページに掲載します。

「重点要望・提案」の主な内容

県有施設、特に子どもの利用機会の多い公園などでホットスポットを見つけだし、すみやかに除染する。病院や保育所など医療・福祉施設を、期限を設定して耐震化を進めるための計画を持つとともに、支援制度創設を検討する。

県産茶に対する風評被害防止対策と、農家・茶商の当面の資金立て替えなどの措置を講ずる。来シーズンに備えた対策を着実に実行する。

県立小児医療センター病棟などの耐震性を確保し、現在の機能を残す。さいたま新都心8-1A街区整備計画はセンター利用者、関係者はじめ県民的議論を進める。

県立大学に医学部を設置する。

ゲリラ豪雨などから市民生活を守るため、都市部の調節池や下水道の整備促進へ市町村を支援する。